

高校生を対象とした公開授業科目(第2学期)～2026年度版～

授業科目名	授業の概要	教養/ 専門 教育	担当教員	期間	曜日	時間
国際協力論A	本授業では、開発途上国が抱える貧困や環境問題など、当該国のみでは解決が困難な課題を取り上げ、日本を含む国際社会がどのように国際協力・開発協力に取り組んでいるのかを考察する。	教養	木下 康光 (インターナショナルオフィス)	10月8日～11月26日 (計8回)	木	16:20～17:50
健康と疾病	本授業では、人類にとって不可避である感染症について、人類と病原体の関係を概説する。そして、医学の発展により人類が得た「健康」を保つための戦略について説明する。今後の社会で健康に生き続けるための知識・情報を提供する。	教養	星野 克明 (医学部)	10月8日～11月26日 (計8回)	木	16:20～17:50
子どもの視座から教育を考える	この授業では、21世紀社会の諸課題として教育問題を取り上げます。まず、我が国の戦後教育の変遷を理解します。その上で、今日的な教育課題でもある3つの教育問題(子ども論、教師論、部活動論)に焦点を当て、資料を精読するとともに、グループで話し合うことを通して、子どもの視座に立つ本質的な「課題」を導き出していきます。	教養	山岸 知幸 (教育学部)	12月3日～2月15日 (計8回)	木	16:20～17:50
こころとからだの科学	この授業では、大学生活において、学生が自身の健康をマネジメントしつつ、社会的にも文化的にも充実した人生を過ごすためには、普段の生活の中でどのような点に留意する必要があるかについて、「心身の健康科学」という自然科学的・人文科学的テーマから概説していく。	教養	泉川 美晴 (保健管理センター)	12月7日～2月8日 (計8回)	月	16:20～17:50
知プラe科目 データサイエンスを活用した防災・危機管理	本講義では、自然災害の軽減を念頭にデータサイエンスによる防災・危機管理のあり方と、地域における災害に対する安全・安心について担当教員がそれぞれの専門分野から説明する。	教養	野々村 敦子 他 (創造工学部)	10月2日～12月2日 (計8回)	-	オンデマンド (e-Learning)
知プラe科目 レジリエントな社会の構築とコンピューターシミュレーション	本講義では、レジリエントな(強靱化)社会構築におけるコンピューターシミュレーション活用事例を挙げ、その重要について担当教員がそれぞれの専門分野の立場から説明する。	教養	岡崎 慎一郎 他 (創造工学部)	10月2日～12月2日 (計8回)	-	オンデマンド (e-Learning)
知プラe科目 災害とデータサイエンス	防災に活用できる科学的なデータとしては、災害に関するデータとそれを観測・分析するテクノロジーについて、災害前と災害後という2つのステージでの議論が重要である。本講義では、こうした「災害」に係るデータの活用方法について担当教員がそれぞれの専門分野から説明する。	教養	石塚 正秀 他 (創造工学部)	10月2日～12月2日 (計8回)	-	オンデマンド (e-Learning)
憲法入門	総論分野を扱う本授業では、憲法の基礎理論を概観したのち、日本国憲法の歴史及び基本原理(国民主権・象徴天皇制、平和主義等)について判例・学説を通じて理解を深めるための授業を行う。	専門	岸野 薫 (法学部)	10月8日～2月4日 (計15回)	木	16:20～17:50
政治思想	19世紀から20世紀終わりまでの政治思想、経済思想を扱う。「政治思想」という科目名なのに経済思想も併せて扱うのは、そうしないとこの時代を理解することは不可能だからである。前半は政治思想、後半は経済思想を中心に講義する。	専門	金子 太郎 (法学部)	10月2日～2月5日 (計15回)	金	16:20～17:50
国際関係論	第二次世界大戦終結以後、東西冷戦を経て成立した現代の国際秩序は、いま厳しい挑戦にさらされている。これからの国際社会そして日本はどのように動いてゆく(べき)か。また国際社会を構成する国民国家の一市民として、この状況をいかに理解すればよいのか。以上の問題意識に基づいて、本講義では国際関係論の基礎的な内容を、理論と歴史を包括しつつ紹介していく。	専門	鶴園 裕基 (法学部)	10月5日～2月1日 (計15回)	月	16:20～17:50
観光学概論	この授業では、観光の持つ多様な側面について解説するとともに、現在、全国各地で行われている観光振興のための取り組みについても、できるだけ多くの事例を紹介しします。	専門	山崎 隆之 (経済学部)	10月6日～2月2日 (計15回)	火	16:20～17:50
経済学入門A (夜間主コース)	ミクロ経済学の基礎を学習します。ミクロ経済学とマクロ経済学は経済学で様々な問題を分析する際の最も基本的な考え方です。ミクロ経済学では、経済を構成する個々の経済主体の行動に焦点をあてた分析を行います。すなわち、個々の家計や企業がどのように経済活動にかんする意思決定を行い、これらの経済主体の間どのような相互関係があるのかを考察します。	専門	天谷 研一 (経済学部)	10月2日～11月27日 (1日2回、計15回)	金	18:00～19:30 19:40～21:10
経済学入門B (夜間主コース)	経済学の初學者へ向け、マクロ経済学の基礎的な考え方を現在の日本経済の状況と照らし合わせ解説します。マクロ経済学はミクロ経済学と合わせ、経済学の土台となる考え方を扱います。特にマクロ経済学ではGDPや物価水準、利子率、失業率などの経済指標の観点から一国全体の経済状況を分析します。また本講義では、マクロ経済学の各種トピックを幅広く扱い、マクロ経済理論の説明にとどまらず実際の日本経済との対応に注目します。	専門	渡部 陸 (経済学部)	10月6日～12月1日 (1日2回、計15回)	火	18:00～19:30 19:40～21:10
公共経済学 (夜間主コース)	ミクロ経済学の応用分野である、公共経済学における様々な理論上の概念について主に講義する。それにより、ミクロ経済学(経済学入門Aなど)で学習した手法を応用して、現実の社会における様々な経済現象を解釈するために必要な能力を養成する。	専門	福村 晃一 (経済学部)	12月8日～2月9日 (1日2回、計15回)	火	18:00～19:30 19:40～21:10
証券市場論 (夜間主コース)	この授業では、企業の過去をまとめた「会計」と、企業の未来を考える「ファイナンス」との関連性に焦点を当てる。主に日本経済新聞や経済雑誌の記事を用いながら、基本的な財務諸表の見方や様々な株価指標、ファイナンスを活用した経営の重要性、上場することの意義やコーポレートガバナンスの問題、買収やM&Aの効果などについて、様々な企業の実例を紹介しながら解説していく。	専門	藤原 敦志 (経済学部)	12月4日～2月12日 (1日2回、計15回)	金	18:00～19:30 19:40～21:10

夏の体験授業

授業科目名	開設学部	期間	曜日	時間
科学・技術の面白さを体験しよう	創造工学部	7月22日(水)～7月24日(金)	—	午前の部: 10:00～13:00 午後の部: 14:00～17:00
農学部サイエンスアドベンチャー2026 ～知っているようで知らない「農学部の研究」～	農学部	8月7日	金	10:00～11:20 研究室紹介 11:30～12:00 施設探検

香川大学では高校生を対象に授業を公開します。
本学の学生と一緒に受講することで、香川大学への興味を深めたり、知的刺激や進路選択に役立ててください。

URL <https://kagawa-u.ac.jp/cooperation-community/course/20433>

